

ナツメの環状はく皮で着果量アップ

1 はじめに

ナツメは福井市内で大規模に生産されていますが、国内における経済的栽培事例は少なく、適切な栽培管理技術が確立していないため、十分な収量が得られていません。そこで、収量を向上させるために、環状はく皮がナツメの着果量に及ぼす影響を検討しました。

2 技術内容

1) 環状はく皮の方法と着果量への影響

環状はく皮は、はく皮幅5mmに設定された環状はく皮ナイフを用いて、半数の主枝に処理しました。はく皮位置は、主枝の分岐部からおよそ20cm離れた部位とし(図1)、病虫害の侵入を防止するため、ビニールテープを巻いてはく皮部を保護しました(図2)。開花始期(花そうの2割が開花した頃:平成28年5月24日)または開花盛期(花そうの8割が開花した頃:平成28年6月14日)の2つの時期に処理しました(図3、図4)。

この結果、1結果枝当たりの着果量は無処理と比べて、開花始期の処理では2.3倍に、開花盛期の処理では3.7倍になりました(図5)。



図1 環状はく皮処理



図2 環状はく皮部位の保護

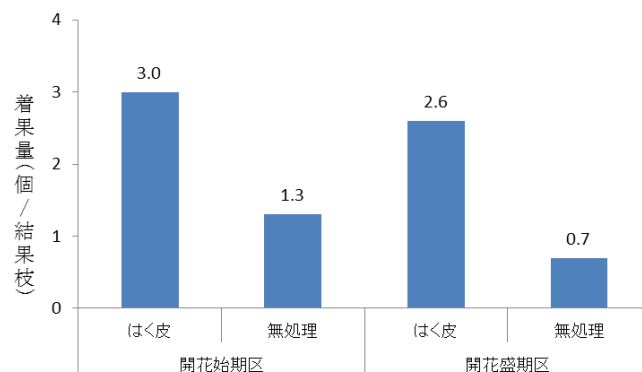


図1 環状はく皮処理が着果個数に及ぼす影響

図5 環状はく皮の時期が着果量に及ぼす影響

2) 環状はく皮が樹体生育に及ぼす影響

6月14日および9月1日の幹周を調査し、その差から肥大量を検討しました。環状はく皮を処理しても、幹周肥大に差は見られず、当年の樹体生育に影響を及ぼさないことが分かりました(表1)。

表1 環状はく皮処理の違いが幹周肥大に及ぼす影響

試験区	処理区	幹周 (cm)		肥大量 (cm) ^z
		6月14日	9月1日	始期
開花始期	はく皮	15.5	16.3	0.8
	無処理	16.3	17.2	0.9
有意性 ^y		-	-	n. s.
開花盛期	はく皮	15.5	16.4	0.9
	無処理	16.6	17.5	0.9
有意性 ^y		-	-	n. s.

z: 肥大量はそれぞれの調査日の幹周の差とした

y: t検定により、n. s. は有意差なし

3 技術の効果およびコスト

- 環状はく皮により、着果量が増大します。

4 留意点など

- 8年生ナツメ(樹間3m×列間3m)を供試しました。
- 単年度の試験結果のため、効果の年次変化については検討が必要です。
- 環状はく皮は、形成層に届く深さまで樹皮を剥いてください。
- 主幹部への環状はく皮は、樹勢衰弱の可能性があるので、避けてください。

研究課題名：ナツメの収量向上技術の開発

研究期間：平成28年度

共同研究者：農業組合法人「棗の里農産」

研究担当者：農試 園研C ウメ・果樹研究G